

主旨 からだの動き、行動は万人変わるものではなく、500年前のレオナルド・ダ・ヴィンチの人体解剖・美、機械工学、自然科学、等々に対する考えはいささかも変わることなく生きて使われ、むしろ彼の精巧さ、科学・美的思想等は素直さを離れて、ゆがめられ、磨かれること少なく、わずかに息づいてるとさえ思うのは思い上がりというのでしょうか。

彼(レオナルド・ダ・ヴィンチ)の時代の被服と今を語ることはできませんが、彼の人体解剖・美・機能等の追求はパターンメイキングに生きてあまりあると考え、人間の着るものを通してパターンメイキングへの理解を得られるならと思います。

方法 (1) 平面を立体に着る。

(2) 立体を直線構成する。

(3) からだの動きを平面に展開し立体構成する図学について、科学的な平面図学への展開。

(4) 着るものに対する考えは、幼児から育成したいと思います。乳幼児の成長に必要な衣料に対して先ず「おむつ」の型体と寸法・材質等について試作、使用後の意見をまとめ、報告する。

(5) 幼児教育の中で着ることを体得させる手段と衣料型体